

日本薬局方ベニジピン塩酸塩錠
ベニジピン塩酸塩錠 8mg 「YD」 の
安定性に関する資料

第一三共エスファ株式会社

I. 包装状態での安定性

－加速安定性試験

1. 試験方法：製剤の規格及び試験方法に従う。

保存形態：最終包装製品（PTP 包装）

保存条件：40±1°C、75±5%RH

試験項目：性状、確認試験、純度試験、製剤均一性試験、溶出試験、定量、水分試験

測定時期：試験開始時、1 カ月後、3 カ月後、6 カ月後

2. 試験結果

ベニジピン塩酸塩錠 8mg「YD」の最終製品を加速条件下で 1、3 及び 6 カ月間保存した検体について、製剤の規格及び試験方法により試験した結果、いずれも規格に適合した。

これより、ベニジピン塩酸塩錠 8mg 「YD」（最終包装形態）は室温で 3 年間は安定であると推測された。

PTP 包装

試験項目〔規格値〕	開始時	1 カ月後	3 カ月後	6 カ月後
性状〔※1〕	適	適	適	適
確認試験：紫外可視吸光度測定法〔※2〕	適	適	適	適
純度試験	適	適	適	適
製剤均一性試験	適			適
溶出試験（%）〔※3〕	93.0～94.5	96.0～96.5	95.5～97.2	98.3～104.0
定量（%）〔95.0～105.0%〕	101.4～102.6	100.2～100.8	99.4～101.3	100.5～102.3
水分試験（%）	2.8～2.9	2.8	2.9～3.1	3.0～3.1

※1：黄色の片面割線入りフィルムコーティング錠

※2：吸収極大：235～239nm 及び 350～360nm

※3：pH1.2、50rpm、45 分間、85%以上

－長期保存試験

1. 試験方法：製剤の規格及び試験方法に従う。

保存形態：最終包装製品（PTP 包装）

保存条件：25±2°C、60±5%RH

試験項目：性状、確認試験、純度試験、製剤均一性試験、溶出試験、定量

測定時期：試験開始時、6カ月後、1年後、2年後、3年後

2. 試験結果

ベニジピン塩酸塩錠 8mg 「YD」について、室温 3 年保存の長期保存試験を行った。

いずれの試験項目についても、開始時からの変化は認められず、規格に適合するものであった。

これより、ベニジピン塩酸塩錠 8mg 「YD」（最終包装形態）は室温で 3 年間は安定であると推測された。

PTP 包装

試験項目 [規格値]	開始時	6 カ月後	1 年後	2 年後	3 年後
性状 [※1]	適	適	適	適	適
確認試験：紫外可視吸光度測定法 [※2]	適				適
純度試験	適	適	適	適	適
製剤均一性試験	適				適
溶出試験 (%) [※3]	適	適	適	適	適
定量 (%) [95.0~105.0%]	100.3	99.6	99.8	99.9	100.2

※1：黄色の片面割線入りフィルムコーティング錠

※2：吸収極大：235~239nm 及び 350~360nm

※3：pH1.2、50rpm、45 分間、85%以上

II. 無包装状態での安定性

－苛酷試験

検体：ベニジピン塩酸塩錠 8mg 「YD」

1. 温度、湿度に対する安定性

保存条件：40±1°C、75±5%RH、無包装、遮光、シャーレ開放

試験項目〔規格値〕	開始時	1カ月後	3カ月後
性状〔黄色の片面割線入りフィルムコーティング錠〕	適	適	適
定量(%)〔95.0～105.0%〕	100.7	99.9	101.6
純度	適	適	適
溶出性〔85%以上〕	93.3～100.9	87.9～98.8	不適(82.7～94.0)
硬度(kgf)（参考値）	4～5	3～4	2～5

2. 通常状態での安定性

保存条件：25±2°C、60±5%RH、無包装、遮光、シャーレ開放

試験項目〔規格値〕	開始時	1カ月後	3カ月後
性状〔黄色の片面割線入りフィルムコーティング錠〕	適	適	適
定量(%)〔95.0～105.0%〕	100.7	100.1	101.1
純度	適	適	適
溶出性〔85%以上〕	93.3～100.9	不適(81.1～94.1)	85.8～93.8
硬度(kgf)（参考値）	4～5	3～5	3～4

3. 光に対する安定性

保存条件：25±2°C、60±5%RH、無包装、光照射、シャーレ開放

試験項目〔規格値〕	開始時	120万Lux・hr
性状〔黄色の片面割線入りフィルムコーティング錠〕	適	適
定量(%)〔95.0～105.0%〕	100.7	99.6
純度	適	適
溶出性〔85%以上〕	93.3～100.9	不適(84.7～96.9)
硬度(kgf)（参考値）	4～5	3～5